

◆次第：①開会、②議事、③その他

◆議事：①総合計画構成（素案）について、②部会審議の進め方について

◆審議概要：

①総合計画構成（素案）について

- 総合計画の構成はできるだけシンプルで 50 ページ程度が良い。大筋の内容のみを記載し、臨機応変に対応できるような構成にしてはどうか。
→現在38ある施策をまとめることでボリュームを減らすことができるのではないかな。
- 防災など宝塚市だけでは解決できない施策については、隣接市と連携する必要があることを記載してほしい。
- 計画策定にあたって、市民ワークショップ、市民アンケートの意見をベースとしているが、今後、障碍（がい）者団体など、様々な立場の方の意見を聞き、計画に反映するプロセスはあるか。
→様々な立場におられる委員の皆様からご意見を頂くとともに、様々な立場の人が参加し策定される分野別計画を十分勘案し総合計画を策定していく。また、計画素案ができあがった段階で、パブリック・コメントを行い広く意見を募集する。
- 施策のつながりを意識できるような見せ方の工夫についても、今後議論していきたい。
- 「協働」という言葉が使われているが、多くの市民は協働のイメージができない。
→押し付けではなく、お互いの姿勢と自発性を尊重し、手を組んでいくことが「協働」である。「協働の指針」を次回以降の審議会で共有をする。
- 提言書で抜けている視点を審議会で補っていただきたい。
- 23万人の市民が自分事として捉えて動いてもらえる基本構想、基本計画にしていきたい。
- まちづくり基本条例に付随する条例をつくることや、議会への議決事項が変わったことなど第5次総合計画と異なることは、序論にしっかりと盛り込むのが良い。
- 人口減少問題をどう捉えるかで計画も変わってくると思うので、市の考えも示してほしい。また、交流人口や関係人口も意識したほうが良い。
- 将来都市構造の位置づけについては、ハード面の都市構造とするのか、産業の都市構造も含めるのか、今後議論していきたい。後者については、まちづくりの視点で整理する方法もある。ハード面の話なら、他市では、都市計画マスタープランに委ねているところもある。
- 市民と行政が目標を共有するため、めざすまちの姿をいかに分かりやすく、とんがらせるかが重要。
- まちづくり基本条例に示す4つの「まちづくりの基本理念」を実現するために総合計画を策定する。市民だけでなく、行政の仕事のやりやすさという視点をもって総合計画を考えていく必要がある。
- 総合計画に親近感を持ち、今後まちづくりに参加したくなるように、市民ワークショップの取組や地域ごとのまちづくり計画見直しの経過などが分かるページを設けてはどうか。
- 少子高齢化は悲観的なことではないという考え方もある。豊かさに焦点をあてて議論してはどうか。
- 総合計画でソフトとハードを結びつけていく必要があると思う。
- 「まち」という単語と西谷が結びつきにくい。第1部会には西谷の人が入っていないので、西谷の視点も入れて審議してほしい。

- 地域ごとのまちづくり計画を掲載するページ数は融通を持たせておいたほうが良い。
- 地域ごとのまちづくり計画を総合計画に掲載するにあたり、行政がリライト（手直し）するのか。
→まちづくり計画見直しガイドラインの中で、フォーマットが定められている。また、書きぶりについて秋ごろに各まちづくり協議会で共有し議論する場もたれる。市が修正することは考えていない。
- 総合計画を身近に感じてもらうため、地域ごとのまちづくり計画に地域の将来像、基本目標だけを記載するのではなく、その内容を決めた背景などを加えてはどうか。
→一つのまちづくり協議会あたり2ページとして、1ページは地域の将来像、基本目標を記載し、もう1ページには、想いを自由に記載する方法なども考えられる。
- 各地域のまちづくり計画の共通基盤を分析し、基本構想や基本計画に盛り込んでいく必要がある。
- 地域ごとのまちづくり計画の見直し完了時期が来年3月となっているが、記載内容を基本構想に反映することはスケジュール上可能か。
→地域ごとのまちづくり計画は来年3月に完成予定であるが、本年9月～10月に途中段階のものが出てくる予定であり、それをもとに審議を進める。地域ごとのまちづくり計画が完成すれば必要に応じて手直しを行う。
- 地域ごとのまちづくり計画の具体的な取り組みと、市の実施計画がリンクしていく仕組みが重要となる。
- 「タカラ ミライ ラボ」の提言書や地域カルテを付属資料として盛り込んではどうか。

② 部会審議の進め方について

- 地域ごとのまちづくり計画の地域の将来像と基本目標については、途中段階のものを第2回の部会で提示する予定。
- 何もかも、いろんなことを書いてもできるわけがない。目をつぶるところはつぶり、メリハリをつけていく必要がある。
→次の10年間で重点化する施策については、ぜひとも部会で議論していきたい。合わせて、予算がなければ、知恵と力を集めて計画を実施するという視点も部会で議論していただきたい。